

### #復習と迷い

人間以外の動物が持つのは、オシツオサレツ表象だけであり、人間だけが記述的表象と指令的表象をもつと述べた。志向的表象は、その生産を目的として生産される表象である。その目的とは、他の動物の行動に影響を与えることであり、伝達である。発話にも、この 3 つ（オシツオサレツ表象、記述的表象、指令的表象）の区別ができる。

記述的発話：主張型発話

指令的発話：行為指示型発話、行為拘束型発話

オシツオサレツ発話：表現型発話、宣言型発話、質問発話

この区別はあいまいである。なぜなら、全ての発話は、記述的要素と指令的要素を持つからである。この区別は、どの要素が強調されているかという区別である。

- ・宣言型は、主張でありかつ指令である（オシツオサレツ表象である）。

「お前は首だ」「わかったよ」

「なんでだよ」

- ・表現型は、記述でも指令でもないのだろうか（オシツオサレツ表象ではないのか？）

「おめでとうございます」「ありがとうございます。」

「ご愁傷さまです」「ありがとうございます」

- ・質問型は、主張であり指令である（命令や依頼との違いは、発話内行為を求める点である）。

## § 10 廣松四肢構造論と二重問答関係

（参考文献：『廣松渉著作集』岩波書店、全 16 巻）

廣松渉(1933. 8. 11～1994. 5. 22)の出世作は、『世界の共同主観的存在構造』（勁草書房, 1975 年）である。主著『存在と意味 事的世界観の定礎』は、次の三巻で計画されていた

第一巻「認識的世界の存在構造」

第二巻「実践的世界の存在構造」

第三巻「文化的世界の存在構造」

実際に、出版されたのは、第二巻の第二編までである。病気のために、第二巻第三篇と第三巻は出版されなかった。

廣松は、従来の「物的世界像」に対して「事的世界観」を主張する。物的世界像の「実体主義」に対して、「関係の一次性」という用語で関係主義的存在観を主張する。実体が自存して二次的に関係し合うのではなく、関係こそが第一次的存在であると主張する。

## 1 認識の四肢構造

第一巻では、「認知的に展らける世界現相」(xvii)の存在構造を扱う。

認知的に展らける「現相的世界」は四肢構造をもつとされる。認識の対象の二肢性と主体の二肢性である。

### # 認識の対象の二肢性

認識は、「として」構造をもち、ある対象を「より以上の或るもの」として捉えることである。対象は、対象＝「現相的所与」を「より以上のもの」＝「意味的所識」として認識する、という二肢性を持つ。

AをBとして認識する時、Aは所与とされるが、しかしAも実はすでに二肢構造を持っている。二肢構造を持つAが、Bとの関係において所与となるのである。

たとえば、私が、コンビニにあるケーキをクリスマスケーキとして認知するとき、コンビニにあるケーキは所与であり、それ（現相的所与）を「クリスマスケーキ」（意味的所識）として認知するのであるが、しかしコンビニにあるその対象を「ケーキ」として認知する時に、すでに二肢構造が成立している。それは、「白いもの」を「ケーキ」として認知することかもしれない。そしてその白いものもまた、対象を「白いもの」として認知するという二肢構造をもつ。認知は、常に、何かを何かとして捉えるという二肢構造において成立するので、裸の対象があるのではない。所知は、所知—所識関係の項として成立する。所知であるものをこの関係から取り出して、対象化したときには、それはすでにあるもの「として」捉えられており、二肢構造をもつ。（この議論は、アリストテレスの「第一質料」に始まる。）

このような対象の側の「として」構造は、解釈学や現象学で指摘されていたことであり、新しい指摘ではない。廣松の新しさは、認識の主体の側にも二肢性を指摘したこと、そしてその二つの二肢性が相関していることを指摘したことにある。

### # 認識の主体の二肢性

認識において、主体もまた「より以上の或るもの」として認識する。その二肢性は、一般的には、「能知的誰某」がそれ以上の「能識的或者」として認識するといわれる（『廣松渉著作集』第15巻136）。

コンビニのケーキを見て、クリスマスケーキとして認知するのは、現代の日本に生活する人間としてであり、だれでもそう認知できるのではない。

レントゲン写真の影を見て、肺がんがあると認知できるのは、訓練を受けた医者としてであり、だれでもそう認知できるのではない。

人（能知的誰某）は、医者（能識的或者）として、レントゲン写真の白い部分（現相的所与）を肺がんの表象（意味的所識）として認知する。

## # 認識の共同主観性

牛を見て、「ワンワン」という子供がいるとしよう。大人は、その子供が、牛を犬だとおもっているとして理解する。この理解は、次のようにして可能である。

その大人は、その子供「として」、その牛を、犬「として」見る。

ここでは、大人は、その子供の視座から牛を見ている。廣松は、これを「視座照応的」（『廣松涉著作集』第15巻146）、と呼び、照応関係の一種とみている。このような照応関係によって、共同主観性が成立する。

「兩人は人称的能知主体としては別々でありながら、一個同一の「所識」を共帰属せしめている者としては同一の能知的主体である。」（『廣松涉著作集』第15巻147）。

「意味的所識」は自分にとってだけでなく他人たちにとっても存立するという間主観性、共同主観的同一性の故に、単ある自分一人の私念ではないこと、この間主観的妥当性によっても存立性をもつ。」（『廣松涉著作集』第15巻197）。

この一人称的主体以上の或者は、意味的所識が、共同主観的に同型化している限りで「共同主観的な或者」である。

能知は、「人称的誰某」以上の「共同主観的或者」である。（198）

「われわれは […] 「現相的所与」が「意味的所識」として「能識的或者」としての「能知的誰某」に対妥当するという二つのレアル・イデアルールな二肢的成態の連関、都合、四肢的な構造的連関態を挙示する。そして、この四肢的構制態をわれわれは「事」と呼ぶ」（199）

## 2 実践の四肢構造

第二巻『実践的世界の存在構造』は、「社会行為論」(xii)を扱う。「実践的な関心の構えに対して展らせる世界現相」もまた四肢構造を持つ。

### # 実践の対象の二肢構造

実践の対象は、「単なる認知的所与より以上の或るもの（価値性を“帯びた”或るもの）として覚知されている」（『廣松涉著作集』第16巻5）

「森羅万象が、一種の表情性をおびている。」（『廣松涉著作集』第16巻6）

「環界的現相が表情性を帯びているというのは、それらが一定の情動興起性・行動誘発性を帯びたそうで感知されるということの謂いである。」（『廣松涉著作集』第16巻6）

例えば、ある靴は、皮で作られたものとして実在しており、足に身に着けるとあることを容易にするという価値を持つ。靴は、<単に存在する所与>というより以上の<価値を持つもの>として存在する。このような行為の対象ないし実践的関心の対象を、廣松は、「用在的財態」あるいは単に「財態」とよび、「用在的財態」が、「実在的所与」以上の「意義的価値」という二肢性をもつことを指摘する。

認識の場合の「現相的所与」と同じく、ここでの「実在的所与」はそれ自体で、また同時に「実在的所与—意義的価値」という二肢性をもつ。逆に言うと、「ある次元での「実在的所与—意義的価値」成体が高次の価値に対して「所与」の位置に立つことがありうる。」（『廣松涉著作集』第16巻17）「ありとあらゆる世界現相が価値を“担う”実在的所与たりうる」（『廣松涉著作集』第16巻18）

### #行為の主体の二肢構造

行為の主体＝「能為的主体」もまた二肢的二重性をもつ。それは「能為的誰某」より以上の「役柄者或者」という二肢性である。

例えば、玉ねぎを炒め、肉を炒め、ニンジンとジャガイモと切って、一緒に似て、ルーを加えて、カレーを作る時、野菜を、カレーの材料として、適当な大きさに切る、カレーにするのに適当な時間炒めたり、煮たりする。私が、料理当番としてカレーを作るなら、私は、「料理をつくれる者」（「能為的誰某」）より以上の「料理当番（その日料理を作るべき人）」（「役柄者或者」）としてカレーを作る。野菜や肉など（実在的所与）は、カレーの材料という価値（意義的価値）を持つ。

#### ・行為の目的手段関係と行為主体の二肢構造

多くの行為は、他の行為に対して、目的となったり手段となったりする。例えば、カレーの材料を買うのはカレーを作るためであり、カレーを作るのはカレーを食べるためであり、カレーを食べるのは栄養を取るためであったりする。ところで、栄養を取るのは、働くためであり、働くのはお金を儲けるためであり、お金を儲けるのはカレーの材料を買うためであるかもしれない。つまり、この目的手段連鎖は、循環しうる。

複数の人間の行為もまた、互いに目的となったり手段となったりする。そしてその目的手段連鎖もまた循環しうる。このような行為の連鎖によって、社会システムは成り立っている。この循環が持続可能であれば、社会システムは持続可能である。

ある行為をする者は、その行為をおこなう理由や目的を持つ。したがって、ある行為をする者は、より上位の目的を持つ者として、その行為を行う。ある行為をする者（能為的誰某）は、より上位の目的を持つ者（役柄的或者）として、その行為を行う。

#### ・商品の例

「アリストテレスは既に「物には二つの用がある。…例えば靴には、靴として履くという用と、交換品としての用とがある。両者は、いずれも靴の用である」と述べている（『政治学』第一巻、第九章1257a。）…交換材との同等性の何たるかについても検討している（『ニコマコス倫理学』第五巻、第五章、1133a。）」（『廣松涉著作集』第16巻p.26）

具体的有用的労働が対象化されたものが、使用価値  
抽象的人間的労働が対象化されたものが、交換価値

抽象的人間労働が、対象化して、交換価値を持つ物になるのだとすると、それは疎外論による説明である。物が交換価値を持つのは、その交換可能性を予期できるからである。その交換レートは、投下される労働時間に比例する。それが商品であるのは、それを人々が交換するからであり、それが価値を持つのは、人々がそれを一定の比率で他の商品と交換するからである。そしてその交換が行われるのは、交換可能だと人々が予期し、それが共有知になっているからである。このような社会関係があるなかで、商品の価値が成立するのであり、社会関係が物象化されているのであって、抽象的人間の労働が対象化されているのではない。（参照、廣松渉『物象化論の構図』、著作集13巻）

### 3 四肢構造論と二重問答関係

#### #問答と「として」構造

Q1「Aは何ですか？」 A1「AはBです」

この答えは、「AをBとして」とらえている。問いは探索であり、「Bを求める」探索は、「AをBとして」捉えることによって完了する。言語を持たない動物の探索行動も、「として」構造を持つだろう。例えば、カエルは、「対象をエサとして」捉えて、それを舌で捕まえる。

ここで、「AをBとして捉える人」は、Q1「Aは何ですか？」という問いにA1「AはBです」と答える人である。答える人は、問いを理解し、それを引受けている人（たとえば、Aがそんざいすることを認めている人）である。Aを捉える「能知的誰某」が、それ以上の「能識的或者」としてBを捉える。したがって、おそらく次のように言えるだろう。

能知的誰某はQ1を問う者であり、能識的或者はQ1に答える者である。

（注、上記の例ではどうなるだろうか。子供が牛をみて「ワンワン」というのを聞いて、大人が、子供はその牛を「犬」だと思っていると理解する。つまり、その大人は、子供として、その牛を「ワンワン」として認知する。このとき、その大人は「その牛は、子供にとって、何か？」と問い、子供として「その牛は、ワンワンである」と答えるのだろうか。あるいは、子供にとっての「これは何か？」「これはワンワンだ」という自問自答を照応することによって、つまり他者の問答を照応することによって、他者の発言を理解するのだろうか。）

#### #二重問答関係と四肢構造

Q2→Q1→A1→A2という二重問答関係があるとしよう。

一般に、問いを問う時には、理由や目的があるだろう。たとえばQ1を問うのが、Xのためであるとしよう。（たとえば、Xを手に入れるという目的のとき、Q2「どうやってXを手に入れようか？」という問いに答えるために、Q1を問うのだろう。あるいは、Xを実現するという目的のとき、Q2「どうやって、Xを実現しようか？」という問いに答えるために、Q1を問うのだろう。あるいは、Xを知るとい目的の時、Q2「どうやったらXを知ることができるだろうか？」という問いに答えるために、Q1を問うのである。）

人がQ2「Aは何ですか」を問うているとしよう。Q2の暫定的な答えが「AはBである」だとしよう。しかしBが何かわからないとき、Q1「Bは何ですか」と問う。Q1の答えが、「BはCである」とき、Q2の最終的な答えが、「AはCである」だとしよう。

ここでは、Q1を問う者S1は、Q2を問う者S2として、Q1を問うている。

Q1の答えA1は「BはCである」であり、Q1に答える者は、BをCとして認知している。  
このとき、Q1を問う者は、Q2を問うために（Q2を問う者として）Q1を問うている。

この指摘は、上記の「能知的誰某はQ1を問う者であり、能識的或者はQ1に答える者である。」  
と次のように関係する。

ある人（能識的或者）は、Q1を問う者（能知的誰某）として、Q1に答える。

その人（能識的或者）は、Q2を問う者（能知的誰某）として、Q1を問う。

このような四肢構造と二重問答関係は、行為の四肢構造の場合にはどうなるだろうか。

---

### <ミニレポート課題>

1 認識の四肢構造の例を挙げてください。

現相的所与—意味的所識

能知的誰某—能識的或者

たとえば、「人（能知的誰某）は、医者（能識的或者）として、レントゲン写真の白い部分（現相的所与）を肺がんの表象（意味的所識）として認知する。」

2、行為の四肢構造の例をあげて下さい。

実在的所与—意義的価値

能為的誰某—役柄者或者

たとえば、「靴職人（能為的誰某）は、商品生産者（役柄者或者）として、靴（実在的所与）を、高級品（意義的価値）として、制作する」

3、質問、異論を書いて下さい。